

# 株式会社女川観光ホテル 第三セクター経営健全化方針

## 1 作成年月日及び作成担当部署

作成年月日 令和2年10月14日  
作成担当部署 女川町産業振興課

## 2 方針の対象となる第三セクターの概要

法人名 株式会社女川観光ホテル  
代表者名 代表取締役社長 渋谷二三男  
所在地 宮城県牡鹿郡女川町浦宿浜字天王 130 番地  
設立年月日 平成10年11月17日  
資本金 40,000 千円 【女川町の出資額（出資割合）10,000 千円（25%）】  
主な業務内容 ホテル業（宿泊、レストラン、宴会、温泉、会議室、売店等）

## 3 経営状況、財政的なリスクの現状及びこれまでの町の関与

株式会社女川観光ホテルは、「ホテル華夕美」としてホテル、レストラン、浴場及び遊技場の経営、農林水産物・園芸品・工芸品・食料品等地場産品の研究開発及び製造販売、観光土産品の販売等を業務として行っている。

大型の観光ホテルとして本町観光業の中核施設であるとともに、飲食を伴う宴会場を完備しており大規模な催事等の会場としての需要もある。

現在の財務状況については、令和2年3月期において純資産額△57 百万となっており、平成22年3月期における純資産額は68 百万であったことから東日本大震災による本町観光業の落ち込みが影響している。

東日本大震災直後は作業員の宿泊所としての需要はあったものの、復興事業が一段落した後は厳しい経営状況となっている。目標とする集客の売上・利益に届かない状況が続いており、長期・短期の借入を行っている状況にある。

本町は第三セクターとしての当該ホテルに対し損失補償、債務保証等を行っていないものの、出資を行っていることから本町における財政的なリスクはあると考えている。

出資者として町長を役員（監査役）に配置し、当該法人との十分な協議や連携を図ったうえで、法人経営の健全化に向けて指導を行っている。

## 4 抜本的改革を含む経営健全化の取組に係る検討

株式会社女川観光ホテルは、町内に唯一ある大型観光ホテルとして本町の基幹産業のひとつである観光業にとって大きな役割を果たしており、経済を含む地域活性化のためにも今後も事業を継続していく必要がある。

しかしながら、近年は東日本大震災の影響はあったものの、債務超過が続いており、持続的な経営を図っていくためには、収支バランスを意識し効率的かつ安定的な経営が求められており、これまでも老人会等の小グループへの営業強化で集客に努めるとともに、一般顧客のネットによる集客を図るため、食事の高評価（口コミ）の維持、町内業者等とのタイアップの企画を創生するなどの経営努力による健全化に努めてきたところであるが、さらに経営を抜本的に見直し、経営体制の変更や大幅な経営改革を実施することを前提に、不採算部門の改善や観光関連事業者との一体的かつ横断的な連携を図るなど具体的な事業の展開等、本町観光業の中心施設のひとつとして、交流人口の拡大、利用者満足度の向上に向けた取り組みを行う。

## 5 抜本的改革を含む経営健全化のための具体的な対応

1. 月次経営会議等による経営改善の進捗状況の確認
2. 宿泊料金、貸会議室料金等の見直しによる客単価の向上
3. 付加価値創出による宿泊稼働率の向上

4. 顧客満足度調査の実施による改善
5. 定期的な従業員研修による従業員満足度、意識の向上
6. 外部有識者からの経営健全化のための助言等の定期的・継続的に仰ぎ改善につなげる

(参考)

## 6 法人の財務状況

貸借対照表から	項目	金額(千円)			損益計算書から	項目	金額(千円)		
		平成29年度	平成30年度	令和元年度			平成29年度	平成30年度	令和元年度
	資産総額	344,477	327,167	310,587		経営利益	-15,218	-12,365	-16,452
	(うち現預金)	4,059	2,635	6,468		売上高	258,899	265,784	249,986
	(うち売上債権)	14,105	11,164	4,865		売上原価	61,146	67,540	62,056
	(うち棚卸資産)	2,121	1,830	1,480		販売及び一般管理費	214,581	211,039	203,922
	負債総額	372,642	367,884	367,942		営業外収益	4,220	3,651	3,268
	(うち本町からの借入金)	0	0	0		営業外費用	2,610	3,221	3,728
	純資産額	-28,165	-40,716	-57,354		当期純利益	-15,403	-12,550	-16,637